

【小学校 体育】

単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①〇〇の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。</p> <p>【知技（運動領域）】 ・運動の行い方についての理解 知識 ・基本的な動きや技能 技能</p>	<p>①〇〇の運動について自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【思判表（運動領域）】 ・自己の課題を見いだす課題に応じた活動の選択 思考・判断 ・言葉や文字等での表出 表現</p>	<p>①運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【主体態（運動領域）】 公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容を踏まえて確認</p>
<p>②身近な生活における△△について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。</p> <p>【知技（保健領域）】 ・△△についての理解 知識 ・基本的な技能 技能</p>	<p>②身近な生活における△△に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。</p> <p>【思判表（保健領域）】 ・自己の課題を見いだす資料等を活用した比較や分析 思考・判断 ・言葉や文字等での表出 表現</p>	<p>②健康を大切にし、自己の健康の保持増進についての△△に関する学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【主体態（保健領域）】 学習状況の確認 課題の追究</p>

※「運動領域」については、知識と技能を別々に評価する場合も想定される。また、技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用等の段階を踏まえ、一定期間をおくなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられる。

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動	
つかかむ	<p>1 単元の課題をつかむ。 ◇試しの活動（記録の測定やゲーム等）や課題把握につながる身近な事象（生活）等を見直す。 ◇単元の課題を明確にする。</p> <p style="text-align: center;">単元の課題 ＜単元の目標を達成するための学習内容＞</p> <p>◇追究内容や方法、学習の計画を明確にする。</p>
追究する	<p>2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。</p> <p>【単位時間】 ◇課題解決に必要な知識や基本的な技能を習得する。（活動1） ◇習得した知識や基本的な技能を活用して課題を解決する。（活動2） ※学習する領域や学習スタイル（個人・集団）にあった単元をつくるのが大切。 体育授業プログラム等資料参考 ※保健領域は、内容に応じて、単位時間（小単元）ごとに追究する。</p> <p>【単位時間】</p> <p>【単位時間】</p> <p>【単位時間】</p>
まとめる	<p>3 単元の課題についてまとめる。 ◇学習の成果を発表する（試す）。 ・演技会や記録会、リーグ戦等 ＜運動領域・体育分野＞ ・グループ発表やレポート紹介等 ＜保健領域・保健分野＞ ◇学習成果を確認し整理する。</p> <p>◇単元全体を振り返り、習得した技能や知識等を整理し、日常生活や次の単元に生かせることをクラス全体で共通理解する。 ※学級全体</p> <p>◇学習の成果を確認する。</p> <p style="text-align: center;">◇単元全体の振り返り ＜個人＞</p>

〈例〉 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
【知技】 運動の行い方等の理解	【思判表】 課題を見出す	【主体態】 学習状況
単位時間		
各単位時間で重点を置く評価の観点は、指導者の授業の「ねらい」によって、変わります。		
【知技】 運動の行い方等の理解 基本的な技能等	【思判表】 選択や工夫 他者に伝える 等	【主体態】 公正、協力、等 課題の追究
※評価の観点は、1時間につき1～2程度にするなど、評価するにあたり無理のない計画を立てるようにします。ただし、重点項目以外は評価しないということではなく、必要に応じて随時記録に残しておくことが大切です。		
単位時間		
単位時間		
単位時間		
【知技】 運動の行い方等の理解 基本的な技能等	【思判表】 選択や工夫 他者に伝える など	【主体態】 学習状況 課題の追究
【知技】 総 運動の行い方等の理解 基本的な技能等	【思判表】 総 選択や工夫 他者に伝える 等	【主体態】 総 公正、協力、等 課題の追究

「指導に生かす評価」
(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況を見取り、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」
総括的評価… **総**

・目標の実現状況が児童の反応から顕著に見られる場面を精選します。
・単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の総括的評価とするのではなく、必要に応じて単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切です。